

2023 年度日本小児腎不全学会評議員会議事録

日時：2023 年 11 月 30 日（木）12:30~13:30

場所：ホテルグランデはがくれ 3 階 天山

出席者（敬称略）：青木裕次郎、秋岡祐子、芦田明、大田敏之、岡部安博、奥見雅由、川崎幸彦、佐藤裕之、寺西淳一、野口満、野島道生、幡谷浩史、服部元史、濱崎祐子、藤枝幹也、藤丸季可、堀田記世彦、三浦健一郎、渡井至彦（19 名）

欠席者（委任状あり）：石田英樹、岩見大基、漆原真樹、大山力、賀本敏行、杉谷篤、中西浩一（7 名）

1. 第 44 回（2023 年）会長の挨拶

野口満先生よりご挨拶いただいた。医学生も大勢手伝ってもらっていること、4 年ぶりに懇親会を用意し、コミュニケーションが促進されるよう立食形式にしたことなどが報告された。

2. 前回議事録確認

令和 4 年（2022 年）評議員会議事録を確認した。

3. 新評議員の挨拶、紹介

青木裕次郎先生、岡部安博先生、寺西淳一先生よりご挨拶いただいた。また、石田英樹先生、岩見大基先生、漆原真樹先生の新評議員就任も報告された。

4. 新監事の挨拶

藤枝幹也先生、渡井至彦先生よりご挨拶いただいた。

5. 令和 4 年度会計報告、監査報告

2022（令和 4）年度の会計報告が事務局より行われ、会計報告が適正なことが監事の藤枝幹也先生、渡井至彦先生の書面によって報告され、承認された。

6. 令和 5 年度予算案

2023（令和 5）年度の予算案が事務局より報告され、承認された。

7. 会員動向

2023 年 11 月 1 日現在の会員数は、正会員 605 名、名誉会長 1 名、名誉会員 25 名であると事務局より報告された。ここ数年は若干減少傾向だが、多職種の会員を増やす努力をしていくことが議論された。

8. 評議員の退任

大山力先生、藤澤正人先生のご定年により、評議員の退任が報告された。

9. 名誉会員の推薦

大山力先生、藤澤正人先生が名誉会員に推薦され、承認された。

10. 会則の一部改訂

第 2 章第 3 条において、対象とする病態を「小児腎不全」から「小児および思春期・若

年成人の腎不全」へ変更することが提案され、承認された。

11. 新評議員の推薦

本学会では小児から成人への移行期にあたる AYA 世代患者も重要な対象患者であり、腎臓内科医の参画が求められることから、腎移植内科研究会の代表幹事である酒井謙先生（東邦大学医学部腎臓学講座）に相談し、新評議員として酒井謙先生、豊田麻理子先生（熊本赤十字病院腎臓内科）、海上耕平先生（東京女子医科大学移植管理科）が推薦され、承認された。

12. 次々期（第 46 回）会長の選出

第 46 回（2025 年度）会長に石田英樹先生（東京女子医科大学移植管理科、泌尿器科）が推薦され、承認された。

13. 編集委員会報告

看護研究報告が少ない現状があり、本田順子編集委員と相談し、投稿規定に「実践報告・事例研究」のカテゴリーを追加したことが報告された。

会誌作成費用に関して、2022 年以降、削減に努めており、出版社との交渉により、図表トレースの質を下げることで従来 1 ページあたり 11000 円かかっていた作成費が、第 42 巻より 1 ページ 8600 円に下がっていることが報告された。また、このコスト削減のため、著者側に差し戻して図表を修正してもらう場合があることを投稿規定に盛り込んだことが報告された。

14. RRT 誌

Renal Replacement Therapy 誌が日本小児腎不全学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本腹膜透析学会等の公式な英文誌であり、随時投稿が受け付けられていることが報告された。

15. 事務局業務委託の一部委託と事務局長補佐の件

来年度から事務局業務を PCO ワークス株式会社に委託することが報告され、承認された。通常、会員 600 名の規模では年間 200-300 万円が相場だが、100-150 万円で交渉中であることが報告された。また、学術集会開催の運営会社が他会社でも問題ないと説明された。

来年度より三浦評議員が事務局長補佐を務めることが報告され、承認された。

16. その他

1) 優秀演題賞の応募・選考に関する申し合わせ事項が確認された。

2) 小児科学会専門医更新単位認定について

現地開催となってきたことも受け、今後の学術集会で申請していく方針が確認された。

3) 学会収支状況

学会収支状況が報告された。経年的に広告費収入が減少していること、来年度から事務局業務委託を行い支出が増加することから、今後繰越金が減っていく見込みであることが報告された。その対応として、医師の年会費を数年後に上げる方向性が議論された。

4) 会員構成

2022 年度の会員構成が医師 94.5%・看護師 3.8%・薬剤師 0.2%・管理栄養士 0.5%・移植コーディネーター0.2%・その他（臨床検査技師 1 名、教員 1 名、保育士 1 名、図書館員 1 名）0.8%であることが報告された。引き続き多職種の会員増加を図ることが報告された。

5) その他

学会事務局としては適格請求書発行事業者の登録申請はしていないため、各学術集会における税務処理の際は注意を要する旨が説明された。

17. 次期会長の挨拶

第 45 回会長の濱崎祐子先生より準備状況が報告された。2024 年 12 月 5 日(木)～12 月 6 日(金)に「心通う腎不全の生涯医療」をテーマとして野村コンファレンスプラザ日本橋で開催予定であることが報告された。診療体制として小児科、腎臓内科、泌尿器科の 3 科が一体で診療しており、その特色を生かした学術集会としたいと挨拶された。

日本小児腎不全学会事務局

議事録作成 服部元史 印

議事録署名 野口満 印

濱崎祐子 印

